



西小だより

12月号

令和7年12月1日

◆ 師走 ◆

校長 藤田 守弘

急に寒くなって、朝、登校している様子を見ていると、マフラー、手袋などの防寒着を身につけている児童が増えてきました。中には、半袖で登校する児童もいて様々です。風邪をひかないか心配にはなりますが、それぞれが自分のしたい格好をしているのを見ると、自分の気持ちを大事にしているように感じて、うれしく思います。また、校庭の銀杏の木の下には、落ち葉が黄色い絨毯を敷き詰めたように広がり、落ち葉で遊ぶ児童は大はしゃぎです。

いよいよ、12月「師走」となりました。年の終わりに向かう中で、頻繁に口にされることになるこの「師走」という12月の異称ですが、「師」を「教師」ととらえている人も多いようです。私自身、子どもたちから「12月って、先生は走り回るほど忙しいんでしょ。」などと声をかけられたことがあります。しかし、由来を調べていくと、「師」は「教師」を指しているのではなく、「僧侶」を指しているようです。普段は落ち着いている師(=僧侶)でさえも、暮れの仏事で走り回ることから生まれた言葉と言われています。他にも「歳果(としあつ)」「為果(しあつ)」といった「年の終わり」を意味する言葉が、「しあす」→「しわす」と変化し、当て字で「師走」と書くようになったという説もあります。一年の締め括りに向かって、また新しい年の準備で気忙しい1か月。やるべきことが一気にやってきて、時計の針の進みがいっそう速く感じられそうですが、そんな「師走」になる前に、落ち着いて、今年中にやっておきたいことの計画を立て、新しい年を迎えるものです。

先月、校内研修会を実施したところ、県内外から54名の参加者がありました。県外からの参加者の多さに、本校の実践が広がりを見せていることに改めて実感したところです。今後も、この広がりは続き、今月は大阪で実践発表の依頼を受け、来年2月には、山口県で、県内の実践発表会で本校職員が発表します。本校の取組が、こうして多くの学校現場で広がりを見せ、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、これからも研修を深めていきたいと考えています。

[学校教育目標]

すべての子どもたちが主体的に学び続け 人間性豊かに生きる子どもの育成

進んで学ぶ子ども

たくましい子ども

思いやりのある子ども

県内外関係者の参加による校内研修会



11月11日（火）に、山口県内や広島県、遠くは石川県、兵庫県、宮崎県から総勢54名の方に参加していただき校内研修会を行いました。研修会では、SWPBSの取組紹介、全校児童の様子の参観、6年生の授業公開と協議等を行いました。参加された方から、児童の笑顔で挨拶する姿やめあてに向かって意欲的に学ぶ姿等を価値づけていただきました。今後も、課題点を踏まえながら、安心安全に学べる環境づくり、子どもたちの豊かな成長に向けて、教職員一同研修に努めてまいります。

校内持久走大会



11月初めから、朝ランと業間ラン（登校後と業間休みの時間での練習）に取り組みました。特に朝ランでは、いつも以上に朝の準備を早く行い、進んでグラウンドを駆け回る児童の姿がたくさん見られました。11月20日（木）の持久走大会では、欠席等のため残念ながら走れない児童もいましたが、保護者の皆様の温かい声援を受けて、力いっぱい走ることができました。練習、本番をとおして、子どもたちの前向きに頑張る姿がたくさん見られました。ご声援ありがとうございました。

5年生お米販売 [12月16日（火）10時～]

5年生は、総合的な学習の時間に、農耕体験を通して6月に田植え、10月に稲刈りを行いました。田んぼアートでは、『70』の文字とおにぎりの形を浮かび上がらせました。

子どもたちが、田植え、稲刈りを行ったお米を田布施地域交流館で販売します。みんなで約100袋の完売をめざします。お時間があれば、ぜひ、お立ち寄りください。

よろしくお願ひします。